

TYPE OF INDUSTRY

情報通信研究機構

NICT 先端研究

150

情報通信研究機構（NICT）では長年にわたって音声認識技術の研究開発の成果を基に、多言語音声翻訳技術の研究開発を推進し、さまざまな分野での実証実験や社会実装を進めている。現在の

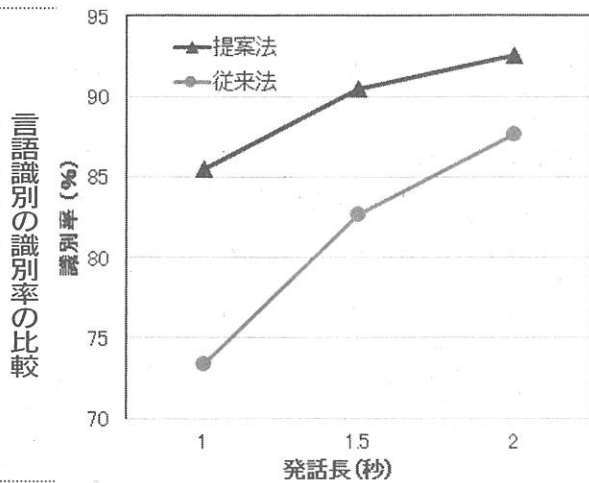
音声認識技術は簡易な強化は、これらのシートの多言語音声翻訳技術の認識精度に達成した。国際ビジネスは2014年にNra（ボイストラ）会議などの多言語や多ICTに入所し、国際話者なシートの議事録音声翻訳ワークショツの作成と同時通訳など「IWSLT」の音では、依然として大きな課題がある。短い音トに参加し、所属チ声で言語、話者、音ムは8の国際研究機関非音声を常に判定し、中大差で1位を獲得し、追跡する信号処理技術た。それから、NIC

短い発話も即言語識別

先進的音声翻訳研究開発推進センター・先進的音声技術研究室 主任研究員

沈 鵬

13年岐阜大学大学院博士課程修了。14年に情報通信研究機構入所。現在は音声認識に関する音声処理の研究に従事。博士（工学）。



この課題を解決するた。従来の一般的な方式では、10秒程度の長い発話でないと識別が困難であるが、この方式により、1.5秒程度の短い発話でも即座に識別を実現した。この技術はすでに「VoiceTra」に実装されている。また、実生活のさまざまなシーンに対応するため、NICTでは言語だけでなく、話者と音声非音声などの検出や追跡技術の研究も取り込んでいる。今年、国際会議「INTERSPEECH」主催の短い発話者認識コンテストで34の国際研究チーム中2位を獲得した。短い発話の処理技術の進化により、多言語音声認識翻訳アプリケーションの応用はさらに広がると期待している。

(火曜日に掲載)

科学技術・大学